

ちりゆく花③

(1) 仕事を終えて帰つて来た清吉は、PTA 会長の古川を恐れて「ヨウ子、すまんがお父さんの言うことを聞いておくれ。学芸会に出るのはやめておくれ」と言いましたが、

(2) 「まあ、お父さんなぜいけないの」「うむ、今日古川さんに頼まれてな。この村では古川さ
んに逆らうと暮らしていけないんだ」 そう話している時、

(3) ヨウ子のことを心配して、田中先生がヨウ子の家にやつて来ました。「こんばんは。私です、
田中です」「は…はい…」

(4) 「先生ですか。何かご用でしようか」「私、今日校長先生から頼まれたことがありました。
でも断りました。そのことを、ヨウ子さんとお父さんにお話しようと思つて来たんです」「へへ
…では中に入つて下さい」 家の中に入つた田中先生は、

(5) 「学芸会にはぜひ出てね。ヨウ子さんは、決まつた役をやつて下さいね。正江さんが自分の
役が嫌ならやめるでしよう。正江さんのわがままのために、ヨウ子さんがやめてはいけません
よ」

(6) 田中先生がヨウ子達と話している頃、正江の家では「これ正江、わしが校長に話しておい
たから、ヨウ子の奴はきっと自分からやめて、良い役をお前にゆづるよ」と言つていました。

(7) 次の日の朝、わがままな正江は得意になつて学校へ出かけて行きます。「私がヨウ子のやる
役をやれるなんて、うれしいわア」と喜んでやつて来ると、

(8) 「正江さん、おはよう」と、いつも正江の『機嫌を取るナメ子』が寄つて来ました。正江は「ナ
メちゃん私ね、学芸会でいい役をやることになつたのよ。ヨウ子はきっとやめるわ」と話して
いましたが、

(9) そこへヨウ子が通りかかりました。「ヨウ子、お前の役は私にゆづるんだつて」 正江は父
の言葉を信じてそう言いました。するとヨウ子は「いいえ」

(10) 「私やりますわ正江さん。あの役が嫌ならやらないでもいいのよ」と答えました。正江はお
どろいて「え…なんですつて、そんなことまア…くやしい」 正江はヨウ子がいい役をやめない
と知つてくやしがつていますが、さてこの続きは…。